大竹市立小学校用教科用図書採択のための調査研究について（答申）

大竹市教科用図書採択地区選定委員会

令和元年８月６日

令和２年度使用小学校教科用図書調査研究の報告について

１．教科用図書調査研究の観点

観点１　基礎・基本の定着

教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る上で，内容の精選及び創意工夫がなされているか。

観点２　主体的に学習に取り組む工夫

問題解決的な学習，体験的な学習を取り入れ，児童生徒の興味関心を生かし，自ら学び，自ら考える力の育成を図る工夫がなされているか。

観点３　内容の構成・配列・分量

学習指導を効果的にすすめる上で，適切な内容の構成・配列・分量となっているか。

観点４　内容の表現・表記

さし絵・地図・図表などの資料等が有効に使われるよう配慮されているか。

観点５　言語活動の充実

基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動の充実や，言語に対する関心や理解を深め，言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整えることに配慮されているか。

≪参考≫　【小学校教科用図書の種目】

全種目

２．調査研究・報告にあたっての留意点

（１）全発行者の教科用図書について調査研究し，報告する。

（２）１発行者の教科用図書について，必ず複数の調査員で調査研究をする。

（３）教科用図書調査研究の観点に基づく各教科・各種目別の具体的な調査研究の視点については，各調査員（会）において定める。

（４）報告書及び要約の作成については，発行者の長所だけでなく，課題と思われる点についても報告すること。

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申整理表

※「発行者」の欄は，教科書目録により略称を記入。

種 目	発行者	選定委員会意見（要約）
国 語	東 書	・単元の導入を１ページ設定し，「言葉の力（つけたい力）」「既習事項とのつながり」を示した上で，「つかむ」で課題を設定し，手引きで学習過程を示し，「ふり返る」では，単元導入の「言葉の力」を詳しくまとめる構成になっている。どの領域も基本的には同じである。 ・「読むこと」の領域では，「問い」を基に学習が進められるよう，手引きの最初に主となる発問例が示され，経験の少ない教員でも扱いやすい。 ・重点指導事項を示している「言葉の力」は，つながりを明確にできるよう前学年の「言葉の力」が，巻末に一覧で示している。 ・思考を整理するツールとしてのノートやメモ，カード，図表など，情報の扱い方や工夫が具体的に示されている。 ・全学年に図書館機能の活用について示されている。
書 写	東 書	・「書写のかぎ」を一単元に一つ配置し，「見つけよう」→「確かめよう」→「生かそう」→「ふり返って話そう」と学習過程を提示し，課題解決型の展開をしている。 ・ワイドな紙面で手本が大きく見やすい。左利き用の写真，配置の工夫による利き手に関わらない文字の見えやすさなど，左利きへの配慮がされている。 ・巻末には既習の「書写のかぎ」が一覧にまとめられていて，ふり返りやすい。
社 会	東 書	・見開きごとに，冒頭に「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習過程と本時の目標に関する学習問題が示されている。 ・主体的・対話的で深い学びを進めることができるように問題解決的な学習の充実を図っている。「まとめる」では，学習したことを振り返り，自分の考えを書いたり話し合ったりする表現活動を提示している。 ・D マークのある教材から，QR コードかアドレスを使ってインターネットを使った学習をすることができる。 ・写真やイラスト等のキャプションの文頭に見開きごとの通し番号と矢印が挿入されている。
地 図	帝 国	・「地図って何だろう」「地図のやくそく」「地図帳の使い方」を12ページにわたって丁寧に扱い，地図帳を使いこなす基礎力を育むようにしている。 ・人々のくらしが読み取れるように，土地の高さによる色分けに，市街地，田・畑など土地の使われ方による色分けを組み合わせた地図表現をしている。
算 数	啓林館	・「たてる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の計算の順序が左から右へ見開き２ページを使って示されている。表示が大きく，色分けもされているので分かりやすい。 ・毎時間の学習で，「学びのめばえ」マークのふきだしを入れて，「学習

種　目	発行者	選定委員会意見（要約）
		の進め方」の流れに沿った問題解決的な学習ができるように課題を配列している。 ・既習事項を１ページ使って１ｍの値段を求めるのはわり算になることを数直線図と関係図で説明し，言葉の式でまとめている。（関係図は啓林館独自のもの）
理　科	啓林館	・単元末の「ふり返ろうまとめノート」では，まとめの例が示され，「新しく学習した言葉」では理科用語が示されているため，基本的な内容を押さえ定着を図ることができる。 ・単元はじめのページに「学習のめあて」が示され，「考えてみよう」「思い出してみよう」などで，既習内容を想起したり自分で問題を考えたりできるよう疑問が投げかけられているため，思考を促すことができると考えられる。 ・巻末のプログラミング用「シート＆シール」を用いて，まず条件と動作の組み合わせを紙で思考させた上で，プログラミング体験ができ，プログラミング的思考に適している。 ・自然災害を扱う単元のはじめには，PTSD への配慮事項がしめされており，配慮がある。
生　活	東　書	・写真資料が多く，被写体が鮮やかで大きいので分かりやすい。資料・写真から成長の様子を知ることができる。 ・地域探検活動中の児童の会話が吹き出しで数多く示され，コミュニケーションを通して活動を展開していく様子がよく分かる。 ・すごろく・絵本・巻物など多様な形式で自分のことをまとめる例が掲載されており，お互いの成長や自分の成長に気付くことができる。
音　楽	教　芸	・１年間の学習内容が巻頭見開きで，系統的にイラストを使って表示されている。 ・キャラクターの吹き出しの中で、音や音楽を「音楽の見方・考え方」を働かせて捉えさせる工夫をしている。 ・巻末の「ふり返りのページ」に各学年で学習した音楽を形づくっている要素が，関連するページ番号とともに記載されている。 ・鑑賞したことをまとめる活動の中で，聴き取り方と話し合いの視点を記述している。
図画工作	開隆堂	・図画工作科の授業を通して育てたい３つの資質能力に対応した「学習のめあて」を各題材の冒頭に配置，その中の重点を下線・色で強調している。 また３つの資質能力に対応したキャラクターも身近に感じさせる。 ・重点的に育てたい力に対応した，児童が自己評価する際の手助けとなる「ふりかえり」を文で示してあり，文章が簡潔で分かりやすい。 ・材料や用具の取り扱い，説明の仕方は，題材名の上に絵と写真で示し，分かりやすくしている。（写真が多い）題材によって，配慮すべき内容を「安全」「かたづけ」の囲みを設けて具体的に示している。

種　目	発行者	選定委員会意見（要約）
家　庭	東　書	・全題材を３つの小題材（「見つめよう」，「計画しよう・実践しよう」，「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」）で展開することで，問題解決的な学習を進めることができる。 ・学習指導要領で示された家庭科の見方・考え方を「家庭科の窓」として設定し，全ての大題材のタイトル横に大切な視点を示している。「生活を変えるチャンス！」にも４つの視点から見つめ記述があり，生活をよりよく変えていくことを意識させている。実践例も具体的で分かりやすい。 ・目次の裏ページに２年間分の学習が示されている「成長の記録」があり，自分で学習を振り返り３段階でチェックすることで自己評価することができるようになっている。 ・巻末の「いつも確かめよう」の調理実習技能では，包丁で材料を切る際のいろいろな切り方が示されているが，写真とイラストの両方を使って切る順序まで詳しく説明されている。また，実寸大の写真が多く掲載されているため，紙面に手を載せて確認し，まねをしながら習得することができるなど技能を高める工夫となっている。よい例，悪い例が掲載されていることも児童にとっては分かりやすい。
保　健	東　書	・どの小単元も右ページから始まり，課題を発見する１ページをとっている。そして，次ページに学習の課題が記載されている。(課題がすぐにはわからない工夫か) ・ワークシート形式で書き込むスペースが多く，書いたり話したりする活動ができる。 ・課題発見・思考・まとめの場面で記述できるスペースが充実している。(記入欄の幅が広く，書き込みがしやすい。)
外国語	東　書	・Can-Do リストが別冊の「Picture Dictionary」の中に示されている。５年生と６年生の２年間を見通した目標の示し方となっている。また単元ごとの目標が示されている。 ・ワードリストが「Picture Dictionary」として，別冊になっている。カラーのイラストとともに表示されており，ジャンル別にまとめられている。単語が４線上に書かれている。 ・児童用カードの切り離しには，はさみを使わなくてもよい。各学年に，コミュニケーションカードという，それぞれの単元の言語活動で活用できる児童用カードがついている。
道　徳	日　文	・学習内容一覧の中に，その教材に関わっている現代的な課題のテーマが書かれており，指導するのに役に立つ。 ・教材のはじめに，登場人物をイラスト入りで提示している。また，導入となるあらすじが２行ほどあり，話のあらすじを理解しにくい児童にも内容を把握しやすく興味が持続できる。 ・教材にあわせた「道徳ノート」があり，１教材１ページという指導の実践に即した構成となっている。また，終末の発問は，実態に応じた発問ができるようあえて発問を記載せず，空欄にしてあるため使用しやすい。

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　国語

発行者	意　　見
東書	・単元の導入を１ページ設定し，「言葉の力（つけたい力）」「既習事項とのつながり」を示した上で，「つかむ」で課題を設定し，手引きで学習過程を示し，「ふり返る」では，単元導入の「言葉の力」を詳しくまとめる構成になっている。どの領域も基本的には同じである。 ・「読むこと」の領域では，「問い」を基に学習が進められるよう，手引きの最初に主となる発問例が示され，経験の少ない教員でも扱いやすい。 ・「問い」の例があることで，教材研究の幅が狭まることが予想される。 ・大単元ごとに重点指導事項に基づく言語活動が設定されている。大単元と小単元の違いが明確である。 ・重点指導事項を示している「言葉の力」は，つながりを明確にできるよう前学年の「言葉の力」が，巻末に一覧で示している。 ・第４学年以上の「漢字の練習」「言葉の練習」では，学校や家庭で使用できるデジタルコンテンツが示されている。 ・思考を整理するツールとしてのノートやメモ，カード，図表など，情報の扱い方や工夫が具体的に示されている。 ・「こんな本もいっしょに」「図書館へ行こう」「本は友だち」等，年間を通して関連作品や多様なジャンルの作品を紹介している。 ・全学年に図書館機能の活用について示されている。 ・第１～４学年は上下分冊，第５，６学年は上下１冊になっている。
学図	・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では，「学習の見通しをもとう」と，課題解決的な学習過程が示されている。「読むこと」の単元では，課題解決の過程は特に示されていない。 ・どのような学習過程で単元を構成しているのか分かりにくい。教材の配列の意図が見えにくく，ばらばらと配列されている。 ・上巻の冒頭に年間学習を見通せる全体図「○年生でつけたい力」で身に付けたい力や内容の確認，振り返りを示しているが，羅列的で児童が活用しにくい。 ・言語活動を進めていくポイント「国語のカギ」が提示されている。 ・デジタルコンテンツとして，ＱＲコードが補助資料へリンクし，ワークシート等が活用できる。 ・「この本読みたいな」「読書の部屋」で関連作品や多様なジャンルの作品を紹介している。 ・全学年に図書館機能の活用について示されている。 ・全学年において上下分冊になっている。 ・「学習のてびき」には，学習過程に沿って，キャラクターによる吹き出しに児童の反応例が書かれているが，キャラクターがやや目立ちすぎる。

教出	・大単元ごとに重点指導事項に基づき言語活動が示されている。領域を複合的に扱う単元が多い。 ・「読むこと」の単元では，「確かめよう」「考えよう」「深めよう」「広げよう」と学習過程を手引きの上段に示されている。下段には，それぞれの過程における児童の反応例が吹き出しで書かれている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では，単元の最初のページの右下に「学習の進め方」として，「見通しをもとう」「ふり返ろう」と学習過程が示されている。 ・付録では，「言葉の木」で語彙，「言葉のまとめ」で言葉の使い方の例を示しているが，語彙は扱う語彙が少ない。 ・身に付けたい「言葉の力」が各教材の「ここが大事」で具体的にまとめられている。 ・写真やイラスト，言語活動例は，色や大きさなど，視覚的にとらえやすい工夫がある。 ・「まなびリンク」として，デジタルコンテンツが示され，作者や作者に関係する記念館について調べることができる。 ・第１，３，５学年に手紙等を書く活動が示されている。 ・「本を読もう」「○学年で読みたい本」で関連作品や多様なジャンル作品を紹介している。 ・第１，２，３，４学年に図書館機能の活用について示されている。 ・全学年において上下分冊になっている。 ・「学習のてびき」では，課題解決を意図した学習過程が提示されているが，文章，吹き出し，図表等の情報量が多い。
光村	・「読むこと」の領域では，単元導入のページに「これまでの学習」で，前学年とのつながりが明記されている。手引きである「学習」のページでは，「見通しをもとう」で，目標が示され，「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」と課題解決の流れ，「ふりかえろう」で，ふり返りの観点が示されている。 ・言語活動や「学習の進め方」が「話すこと・聞くこと」及び，「書くこと」では単元冒頭，「読むこと」では単元末の「学習」（手引き）に示されている。 ・ふりかえりの観点は，「知る」「読む（書く）（話す聞く）」「つなぐ」の３観点（複合単元では４観点）で統一されている。チェックができるよう枠も設けられている。 ・巻頭は，「学習の進め方」と各学年で学習することで構成され，各単元の「たいせつ」，付録の「学習を広げよう」な中の「たいせつのまとめ」とつながりに一貫性がある。 ・第２学年以上の巻末の「言葉の宝箱」には，学年に応じた語彙や「学習に用いる言葉」等が掲載され充実している。 ・第２学年以上に情報の扱いに関する教材「情報」が４か所設けられている。 ・「関連マーク」などの印が必要以上に多く用いられ，情報が整理しにくい。 ・デジタルコンテンツの補助資料として，ＱＲコードのリンクが示され，インタビューの実際の様子を動画で参照することなどができる。 ・第１，２，４学年に手紙等を書く活動が示されている。（第３，５学年は付録にある。） ・「この本，読もう」「本は友だち」で関連作品や多様なジャンルの作品を紹介している。 ・全学年に図書館機能の活用について示されている。 ・第１～４学年は上下分冊，第５，６学年は上下１冊になっている。

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　書写

発行者	意　見
東書	・「書写のかぎ」を一単元に一つ配置し，「見つけよう」→「確かめよう」→「生かそう」→「ふり返って話そう」と学習過程を提示し，課題解決型の展開をしている。 ・筆先の動きを朱色で使って表したり，顔のマークや擬態語等で表したり，視覚的な工夫がある。デジタルコンテンツで書く姿勢，運筆動画などを見ることができる。 ・３年以上には，インデックスで学習事項と既習事項を示し，児童自身が系統性を意識した学習ができるようにしている。 ・インデックスは活用が難しく，インデックスがあることで，教科書の紙面が大きくなり，やや机に置きづらい。 ・ワイドな紙面で手本が大きく見やすい。左利き用の写真，配置の工夫による利き手に関わらない文字の見えやすさなど，左利きへの配慮がされている。 ・巻末には既習の「書写のかぎ」が一覧にまとめられていて，ふり返りやすい。 ・姿勢の写真が大きく，色もシンプルである。必要なところに色を使い，情報が整理しやすい。 ・１，２年生の巻末に水書用紙を付属している。 ・「生活に広げよう」「学びを生かそう」では，新聞，手紙の書き方など国語科，他教科での活用例を示している。
学図	・「たしかめて書こう」→「考えて書こう」→「生かして書こう」→「ふり返ろう」という学習過程を提示し，題材の目標を「鉛筆マーク」で，習得する技能のポイントを「書き方のカギ」として示している。 ・子供のキャラクターの疑問や気付きに，「えんぴつ先生」や「ふでじい先生」がポイントを示して答え，親しみやすく主体的な学びを促しているが，キャラクターが大きく，やや目立ち過ぎている。 ・「二次元コード」による動画資料を見ることができる。 ・「ふり返り」では，毛筆で学んだこと生かして，硬筆で書いて確かめる構成になっている。ふり返りの視点が示され，自己評価ができる。 ・手本が半紙原寸大だが，机に置くのが難しい。硬筆書き込み欄も充実しているが， 低学年には硬筆手本の字や練習枠がやや小さい。 ・正しい姿勢や筆記具の持ち方を写真とイラストで解説している。 ・姿勢の写真がやや小さく，奇数学年は男児，偶数学年は女児となっている。 ・水筆を扱うページはあるが，水書用紙がない。 ・「書写の資料館」は，手紙やはがきの書き方，ポスター，ローマ字表など，日常生活における実用性が高い。

教出	・「学習の進め方」を「見つける・比べる」→「書く・たしかめる」→「ふり返る・伝え合う」→「広げる」，学習のポイントを「たいせつ」として示している。 ・イラストや「とん・すうっ・ぴた」の音声や朱墨と薄墨で明快に示した穂先の通り道等で，運筆をイメージしやすくしている。 ・「まなびリンク」で，全ての毛筆動画を見ることができる。 ・毛筆学習のページに，硬筆での「試し書き」と「まとめ書き」があり，自分の学びを確認できる。 ・手本や写真がやや小さい。説明の文字が多く，一ページに収められた情報が多い。 ・１年生の巻末に水書用紙を付属している。 ・「はじめの学習」での「学習の進め方」では，学習の見通しを持ちにくい。 ・小筆の持ち方と鉛筆の持ち方が写真と解説入りで比較されている。 ・全学年に手紙やはがきの書き方を収録し，発達段階にふさわしい伝える力を育てることを意識している。作品例も児童が参考にしやすい。
光村	・教材ごとに「考えよう」→「たしかめよう」→「生かそう」の学習課程が示され，学習のポイントは「たいせつ」として示している。 ・マーク等がないため，「めあて」がやや分かりづらい。 ・キャラクターの動きや擬態語・擬音語を活用して，直感的に筆づかいを理解し，学習意欲を高める工夫が見られる。 ・「二次元コード」で動画資料を見ることができる。 ・各教材が見開きまたは１ページで構成されていて，シンプルでわかりやすい。書き初めやまとめ教材に選択数が多い。（長半紙用と半紙用もあり） ・硬筆書き込み欄がやや少ない。（複数の教材をまとめて１ページ分など） ・巻頭の「学習の進め方」等が掲載された「いつも気をつけよう」は，写真と簡潔な説明が分かりやすい。 ・全学年に姿勢と筆記具の確認をする場を設定し，定着を図る工夫がある。 ・１年生の巻末に水書用紙が付属している。 ・国語科や他教科等と連動できる教材や，日常生活とつながりが実感できる教材が工夫されている。
日文	・ページの最初に「マーク」で題材の目標を示し，「考える」→「たしかめる」→「いかす」の３段階で学習過程を示している。 ・穂先の向きや動きなどが筆の顔の表情や言葉で表現され，キャラクターの発言が，子どもたちの気付きを促すようになっている。 ・デジタルコンテンツによる動画資料を見ることができる。 ・自分の文字の課題を知るための「自分の文字と向き合って」のページがある。 ・フェルトペンで書かれた字体に特徴があり，なぞる字が濃い。 ・巻頭の「書写学習の進め方」は，学年に応じた示し方がされ，全学年で「書く姿勢」や「持ち方」が写真と簡潔な説明で示されていて，いつでも確認ができる。 ・１，２年生の巻末に水書用紙が付属している。 ・国語科との関連を図った「国語の広場」や語彙力の向上を目指した「言葉のまど」が全学年に一つずつ設定されている。 ・「伝え合い」を重視して，絵日記や原稿用紙，学級新聞やポスター，手紙の書き方などを全学年にわたって掲載し，目的や相手を意識した書写力を活用する場面を想定した教材が設定されている。 ・資料が豊富だが，巻末にあるので使いこなせない可能性がある。

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　社会

発行者	意　見
東書	・見開きごとに，冒頭に「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習過程と本時の目標に関する学習問題が示されている。 ・大単元では「めあて」として目標をカラー枠囲みで表示していて分かりやすい。 ・めあての語尾が，「～でしょうか。」「～ましょう。」と統一されていない。 ・「まとめる」で調べた内容を多様な表現方法でまとめることが説明されている。 ・主体的・対話的で深い学びを進めることができるように問題解決的な学習の充実を図っている。「まとめる」では，学習したことを振り返り，自分の考えを書いたり話し合ったりする表現活動を提示している。 ・「まとめる」では，まとめ方の示唆が掲載されており，書き込む枠はあるが，色付の紙面は使用しにくさがある。 ・領土について「多くの島からなる日本」で取り上げ，「領土をめぐる問題」として見開きで，上巻p12～15に渡って本文・地図・写真で取り扱っている。 ・学習指導要領に示されている歴史上の人物42名全員を取り上げている。 ・キャラクターたちは，資料の説明やポイントを吹き出しの中で，話し言葉で述べている。親しみをもって学習に臨める。 ・「ひろげる」や「いかす」のページでより興味関心に応じて，発展や補充ができるようになっている。 ・「まなび方コーナー」で「見る・聞く・ふれる」「読み取る」「表す・伝える」など学習場面に応じた学び方を示している。 ・「まなび方コーナー」に対話的・協働的な活動につながる具体的な手法や正しく情報得るための技法が例示されている。 ・形式を丁寧に示しているがゆえに，それをこなしていく授業形態に陥って主体的な学びにつながらない可能性がある。 ・Dマークのある教材から，QRコードかアドレスを使ってインターネットを使った学習をすることができる。 ・巻末に「どのように学んだか振り返ろう」を設け，どのような方法を用いて学習したか振り返るようにしている。 ・実際の授業での典型的な学習の流れが「まなびのポイント」として緑色の鳥のキャラクターとともに明示され，地域の実態を生かした学習指導に活用できるようになっている。 ・青いカナリアのイラストの付された囲みには，補助的な発問や指示，説明や既習内容の掲載ページが記述されている。 ・写真やイラスト等のキャプションの文頭に見開きごとの通し番号と矢印が挿入されている。

教出	・本単元の問いを「みんなでつくった学習問題」として示している。 ・各単位時間ごとに，「この時間の問い」として見開き左ページに示し，「次につなげよう」で，次時の「この時間の問い」につなげるようにしている。 ・単元の目標，めあてが明記されていない。 ・地域の郷土料理や日本にある世界遺産の地図が掲載されている。 ・災害地域と日本地図を関連づけて表記している。 ・学習指導要領に示されている歴史上の人物42名全員を取り上げている。 ・領土について「日本の国土はどこまで？」で取り上げ，「領土をめぐる問題」として見開きで，上巻p12～15に渡って本文・地図・写真で取り扱っている。 ・実際の授業での典型的な学習活動が「活動」として記載され，地域の実態を生かした学習指導に活用できるようになっている。 ・「社会的な見方・考え方」を子どもの問いや発言のかたちで例示したコーナーを設け，意識して学習を進められるようにしている。 ・問題を解決していくうえで必要な学習技能を「学びのてびき」で示している。（「集める」「読み取る」「表す」） ・形式を丁寧に示しているがゆえに，それをこなしていく授業形態に陥って主体的な学びにつながらない可能性がある。 ・「まなびリンク」ウェブサイトで情報が得られることを紹介している。 ・興味や関心に応じて活用する「ひろげる」コーナーでは，地図や地図記号に関する知識を広げたり理解を深めたりするようにしている。 ・小単元の末尾「まとめる」では調べたことを整理し，対話的な学習を通して定着を図り深い学びにつながるようにしている。 ・巻末では，各学年の学習内容や学習過程，「社会科の見方・考え方」について振り返るようにしている。 ・写真やイラスト等のキャプションの文頭に見開きごとの通し番号と矢印が挿入されている。 ・単元末のページで，調べた内容のまとめ方の例示が掲載されている。 ・調べたことを活用することが例示されていない。

日文	・見開きごとに，本文の初めに，どのような学習活動をするかが書かれ授業の流れをつかむようにしている。 ・「わたしたちの問題」「学習問題」「さらに考えたい問題」を設定し，問題を追究する中でより問題意識を発展させていくようにしている。 ・単元名に統一感は見られない。 ・日本の伝統的な食文化，和食についての記載がある。 ・学習指導要領に示されている歴史上の人物42名全員を取り上げている。 ・領土について「日本の位置とはんい」で取り上げ，「日本の領土をめぐって，どのような問題があるのだろう？」と学習課題を提示し， p14～17に渡って本文・地図・写真で取り扱っている。 ・領土に準ずる排他的経済水域がつかめず，領土問題がつかみにくい。 ・p90～91実際に起こった火事や交通事故の写真を掲載している。目に留まりやすいが，心理的な負担が気になる。 ・「キーワード」「やってみよう」「学び方・調べ方」等のコーナーで，基礎的・基本的な知識や観察・資料活用力を育成するための学習技能を提示している。 ・「学び方・調べ方コーナー」にて，対話的・協働的な活動につながる具体的な手法や正しく情報を得るための技法が例示されている。 ・実際の授業で行う学習活動や作業を促す「やってみよう」が記載されているが，ページ中段にあり，挿入頻度も低いので，必要な学習過程として認知されにくい。 ・デジタルマークで，ウェブページのデジタル資料を使用できる教材を示し，学習をより深めていくことができるようになっている。 ・キャラクターたちは，資料の説明やポイントを吹き出しの中で，話し言葉で述べている。 ・「見方・考え方」コーナーで，どの視点で思考すれば課題が解決できるか博士マークで示している。（「空間」「時間」「かんけい」） ・「わたしたちの学びを生かそう」では，漫画を使ったり資料を提示したりして，興味関心を高めてより深く学習内容を調べたり考えたりしていけるようになっている。 ・写真やイラスト等のキャプションの文頭に見開きごとの通し番号が挿入されている。 ・単元末のページで，調べた内容のまとめ方の例示が掲載されている。 ・ふり返りシートは，教科書に直接書き込める程度の面積を確保してあって，使いやすい。 ・ふり返りが話し合い中心でバリエーションが少ない。 ・巻末に３年生の学習の振り返りがない。

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　地図

発行者	意　見
東書	・左ページにインデックスがある。 ・領土領空領海，排他的経済水域を立体的断面図で表示している。大陸棚と排他的経済水　域の関係が分かりやすい。 ・「日本とそのまわり」では，最端の４島の写真と説明がある。 ・「日本の文化と歴史」では，旧国名，世界遺産の写真と場所，歴史的名所や祭りなどをイラストで記載。 ・自然と防災ページの具体的詳述・先人の津波石碑 ・人々のくらしが読み取れるように，土地の高さによる色分けに，市街地，田・畑など土地の使われ方による色分けを組み合わせた地図表現をしている。 ・デジタルコンテンツとして２次元コードやアドレスが提示され，使用上の注意もp96で提示。 ・地図の仕組みをわかりやすく解説した「まちを上からながめてみよう」「真上から見ると地図になるよ」「市を見わたしてみよう」で地図学習の仕方を示している。 ・地図の地形の色分けの色が濃く，文字が読みにくい。 ・教科書単元のねらいを意図した具体的な記述が少ない。
帝国	・タイトルは，左上に統一されて記載され，探しやすい。 ・「地図って何だろう」「地図のやくそく」「地図帳の使い方」を12ページにわたって丁寧に扱い，地図帳を使いこなす基礎力を育むようにしている。 ・「日本とそのまわり」では，最端の４島の写真と説明，竹島と尖閣諸島の写真と説明があり，「日本固有の領土」とひとまとまりにしてある。 ・「日本の文化と歴史」では，旧国名，旧国名の付いた産物，鎌倉の地図を掲載。 ・人々のくらしが読み取れるように，土地の高さによる色分けに，市街地，田・畑など土地の使われ方による色分けを組み合わせた地図表現をしている。 ・２次元コードやアドレスが提示され，タブレットパソコンなどを用いて内容を深められるコンテンツがある。 ・協力する態度を育成することができるよう，キャラクターどうしが教え合いながら学習している場面を示している。 ・教科書単元のねらいを意図した具体的な記述が少ない。

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　算数

発行者	意　見
東書	・目標設定の際に，既習との違いに着目させている。 ・ひっ算の仕方がすべて黒文字で表示してあるため，大事なポイントが強調されにくい。 ・１年生の教科書は，ワークシート型になっており，入学してしばらくはノートの必要がない。 ・1年ワークシート型教科書は，フラットに開けるよう工夫してある。 ・前期には，テープ図等を用いて思考させる題材の取扱いが少ない。（２年） ・６年以外は教科書が上・下に分かれているため，一冊分の厚みが薄く，ランドセルが重くならない。 ・「データの特ちょうを調べて判断しよう」の単元において，算数用語を的確によく目立つように扱っている。（６年データ）
大日本	・題材による違いが明確な目標になっている。 ・前期には，テープ図等を用いて思考させる題材の取扱いが少ない。（２年） ・最初の単元が，「折れ線グラフ」になっているため，理科の温度のかわり方の学習の前に，折れ線グラフが描けるようになっている。（４年） ・教科書が全学年1冊。上・下に分かれていないため1冊のページ数が多く重い。 ・分量（ページ数）が多く，ゆったりとスペースを取ってある。（６年データ） ・既習事項の復習なしで，いきなり小数のわり算の問題を示してある。 ・「わり算のきまり」を使う場面があり，巻末にある「4 年生までのまとめ」を参考にしたらいいことを分かりやすく示している。
学図	・題材ごとの目標を“めあて”として示しているが，めあてが示されていない題材もある。 ・ひっ算の仕方の表記の中で，注目すべきところが強調されていない。 ・前期には，テープ図等を用いて思考させる題材の取扱いが少ない。（２年） ・単元によっては，「ふりかえろう　つなげよう」のページを設け次につながる課題のヒントを与えている。 ・実際に円を転がして円周を調べることができる。（５年「図形」領域） ・教科書のサイズが大きい。開くと横が A3 サイズになるため机の大部分を占めてしまう。（全学年） ・「データの活用」では，PPDAC のサイクルについて最も詳しく扱っている。（６年） ・グラフや表がとても大きく，読み取りやすい。書きこみ用ページの角や図形と余白が大きく，作業しやすい。（４年） ・２人の考えを示し，１人は$\boxed{\text{いろいろな数値をあてはめて考える方法}}$，もう１人$\boxed{\text{は数直線図や４マス関係表}}$で考えて立式する。その後，２人の考え方を示している。（４マス関係表は学校図書独自のもの）

教出	・題材ごとの目標は示されておらず，「はてな」「だったら」など，次の課題につながる問いかけになっている。 ・わり算のひっ算の，二回目の「たてる」→「かける」→「ひく」という過程が丁寧に示されていない。 ・単元後半の問題では，問題の文章のみが表示してあり，テープ図にする際のイメージが持ちにくい。（２年） ・教科書が上下に分かれておらず重い。180ページ（１年） ・「データの見方」では，基礎的な説明に加え，活用の仕方に重点を置いた構成になっている。（６年） ・単元末に「学んだことを使おう」や「4コマ漫画」「考えるヒント」などを提示し，児童に合わせた振り返りが自主的にできる工夫がある。 ・数直線図に細かく目盛りが打ってあり，答えが大体どのくらいの数値になるか見通しがつくようになっている。
啓林館	・目標の表現が具体的で分かりやすい。 ・「たてる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の計算の順序が左から右へ見開き２ページを使って示されている。表示が大きく，色分けもされているので分かりやすい。 ・第２学年の前期から「かくれた数はいくつ」という単元を設け，図を使って筋道を立てて考えさせている（10ページ扱い）。 ・毎時間の学習で，「学びのめばえ」マークのふきだしを入れて，「学習の進め方」の流れに沿った問題解決的な学習ができるように課題を配列している。 ・「比べる」「はかる」など，具体的に体験する活動が多く仕組まれている。（１・２・３年「測定」領域） ・ものさしやメジャー等を使った直径や円周の長さの測り方は示していない。（５年「図形」領域） ・１年生の教科書が上下に分かれておらず，重い。 ・「データの活用」では，教科書の見開きで学習する内容が示してあるため扱いやすい。 ・既習事項を１ページ使って１mの値段を求めるのはわり算になることを数直線図と関係図で説明し，言葉の式でまとめている。（関係図は啓林館独自のもの）
日文	・題材ごとの目標は示されていない。 ・前期には，テープ図等を用いて思考させる題材の取扱いが少ない。（２年） ・三角形の３つの角がそれぞれ色分けされ，3つの角を合わせると180°になることが捉えやすい。（５年「図形」領域） ・６年以外は教科書が上・下に分かれている。 ・「資料の調べ方」では，挿絵や色分け，吹き出し等の工夫が多くあり，場面をイメージしやすい。（６年） ・ページを繰りながら前のグラフを参考に問題を解くような部分があり，問題を解くのに困難な児童もいると思われる。（６年データ） ・倍の計算や割合の学習を「わり算」の単元の中で扱っており，考え方より，計算方法に重点が置かれている。（４年）

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　理科

発行者	意　見
東書	・　観察・実験の手順が示されており，写真や図と対応させているため理解しやすい。 ・　「理科のミカタ」や「学んだことを使おう」が示されているため，「理科の見方・考え方」を働かせて思考するヒントになる。 ・　「学びをつなごう」では下学年や他単元で学んだ内容を使って考え整理することで，知識を関連付けてより深く理解できるように工夫されている。 ・　写真が多く使われており，写真や活動から疑問を見つけ，問題をつかむ構成になっており，児童の興味・関心が高まりやすい。 ・　「変える条件」「変えない条件」を表中に区別して示すとともに，表中に結果の見通しを位置付けており，理科の見方・考え方を働かせるような工夫がなされている。 ・　小単元の中でプログラミングのものづくりを紹介するなど，活動の内容が多く紹介されており，児童の実態に合わせて活動を選択できる。 ・　自然災害を扱う単元の始めには，扱う際の留意点が記載されており，配慮がある。 ・　生活場面や身近な資料から児童の対話を吹き出しで示して，疑問を引き出し，学習課題へつなげる導入の工夫がなされている。 ・　発展的な学習内容のページ数が少ないため，さらに学習を深めたい児童に対応した内容が十分ではない。
大日本	・　巻頭の「理科の学び方」で学習の流れを示すと共に「話し合いのしかた」が示されており，問題解決のために必要な内容をおさえる工夫がなされている。 ・　巻末のページにノートの書き方，調べ方，学年のまとめ，理科室のきまりなどがまとめられているため，基本的な内容を押さえる工夫がなされている。 ・　防災が大単元で取り上げられており，巻末資料にも「災害に備えようブック」を掲載するなど，生活との関連が図られ，災害に関する内容が充実している。 ・　プログラミングが基礎編・応用編と段階的に学習できる。 ・　巻末に学んだことを活用して解くチャレンジ問題があるため，既習の知識を活用して考える力を伸ばすことができると考えられる。 ・　観察・実験の準備物の記載がないため，準備物を教科書では確認できない。 ・　条件制御に関する「変える条件」「変えない条件」という文言が表外に示されており，分かりにくい。
学図	・　器具の扱いについては，作業を分解してチェックしながら作業を進められるようになっているため，準備物もチェックができる。 ・　単元の最後に「できるようになった」という振り返るコーナーがあり，付けたい力に対応した振り返りの視点が分かるように工夫されている。 ・　単元のはじめのページに学習する内容が番号で示され，めざす資質・能力が示されているため，児童がこの単元でどのような力をつけるのかが分かりやすい。 ・　条件制御に関する言葉が「調べる条件」「そろえる条件」となっており，「調べる条件」は条件を変え，「そろえる条件」は条件を同じにするということが理解しにくい。 ・　単純なプログラミングがシミュレーターを使って体験ができるようになっているが，実際に動かす体験は示されていない。

教出	・　裏表紙に「理科の安全の手引き」を掲載し安全に観察・実験するための基本的な技能を身に付けさせることができる。 ・　発展的な学習内容のページ数が多いため，さらに学習を深めたい児童への工夫がされている。 ・　巻頭の学習の進め方のページに，その学年で付けたい力を掲載している。 ・　巻頭や巻末には，その学年の学習内容に関係する科学の専門家からのメッセージを掲載するとともに，学習内容と関連する科学の功績を「科学の研究者たち」として掲載し，科学に関する興味・関心を高める工夫がなされている。 ・　条件制御に関する「変える条件」「同じにする条件」が示されているが，表中に結果や結果の見通しが示されていない。 ・　４年で防災・減災に関する取扱いがない。 ・　プログラミングは「チャレンジ」として紹介してあり，説明中心であるため，プログラミング体験としてはふさわしくない。
啓林館	・　単元末の「ふり返ろうまとめノート」では，まとめの例が示され，「新しく学習した言葉」では理科用語が示されているため，基本的な内容を押さえ定着を図ることができる。 ・　注意マークの具体として，強い光，やけど，けが，廃液，かん気，保護眼鏡マークで気を付けるポイントを示しているので，児童が注意すべきことが一目で分かる。 ・　４・５・６年に「みんなで使う理科室」が４ページにわたって掲載してあり，理科室の基本的なきまりを押さえるように工夫されている。 ・　単元はじめのページに「学習のめあて」が示され，「考えてみよう」「思い出してみよう」などで，既習内容を想起したり自分で問題を考えたりできるよう疑問が投げかけられているため，思考を促すことができると考えられる。 ・　巻末のプログラミング用「シート＆シール」を用いて，まず条件と動作の組み合わせを紙で思考させた上で，プログラミング体験ができ，プログラミング的思考に適している。 ・　自然災害を扱う単元のはじめには，PTSD への配慮事項がしめされており，配慮がある。 ・　条件制御に関する説明はあるが，同じにする条件を結果の横に分けて示しており，分かりにくい。
信教	・教科書見本がないため，調査研究不可能

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　生活

発行者名	意　　見
東書	・写真資料が多く，被写体が鮮やかで大きいので分かりやすい。資料・写真から成長の様子を知ることができる。 ・地域探検活動中の児童の会話が吹き出しで数多く示され，コミュニケーションを通して活動を展開していく様子がよく分かる。 ・同じ商店街が季節ごとの特徴をとらえた挿絵で紹介されているので，季節の変化が分かりやすい。（違いを比べやすい。） ・地域に伝わる遊びや伝統行事を写真で紹介しているので，地域のよさに関心をもちながら学習できる。 ・すごろく・絵本・巻物など多様な形式で自分のことをまとめる例が掲載されており，お互いの成長や自分の成長に気付くことができる。
大日本	・地域探検場所の写真とともに，質問したこと・答えてもらったことを吹き出しで例示してありイメージしやすい。 ・巻末の「がくしゅうどうぐばこ」に多くの（16 種類）生きものが掲載されているので，興味がわく。 ・友達のすてきな所をカードに書いて伝え合う活動や，自分の小さかった頃のことについて，家族や身近な人に聞き取る活動をもとに「自分はっけんブック」を作成することで，自分の成長に気付く工夫がされている。 ・見出しが読みにくい。 ・季節の違いや出会いの変化などが明確ではない。
学図	・生きものの様子を大きく写真で示してあり，手足の数や動きなどが分かりやすい。 ・町の同じ場所の四季の移り変わりをイラストで紹介しているので，変化が分かりやすい。 ・友達からの「すてきカード」を伝え合う活動や，家族や身近な人に聞き取る活動をもとに，自分のことを一枚にまとめることで，自分の成長や自分を支えてくれる友達や大人に気付く工夫がされている。 ・記録カードや作文等の文章量が多く，文章表現が苦手な児童にとって例示としては難しい。 ・季節の違いや出会いの変化などが明確でない。 ・地域たんけん後，児童が伝えたいこと（発表内容）の具体が分かりにくい。
教出	・巻末の「学びのポケット」で思考ツールの活用例を紹介し，児童の思考を促している。 ・学習活動の自己評価や学びの軌跡を残す「書きこみ欄」があり，それを振り返ることで自分の成長に気付く工夫がされている。 ・地域探検中の児童の会話やつぶやきの例示が少ないため，気付きの視点が分かりにくい。
信　教	・教科書見本がないため，調査研究不可能。

光村	・ホップ，ステップ，ジャンプと「見つける」「振り返る」までの過程を分かりやすく３段階で示している。 ・単元ごとに，自分が書いた振り返りシールを貼り，それらのシールをまとめて貼り直すことで，１年間の学習全体を振り返り，自分の成長を実感できるような工夫がある。 ・写真が少なく，イラストの説明が多い。特に飼育の場面は写真に比べると分かりにくい。 ・季節の違いが明確ではない。 ・「どうすれば」のコーナーで伝える方法を考えさせているが，探検後の表現活動の例示がクイズ・ポスター・パンフレットと，やや少ない。
啓林館	・「きせつだより」として写真と挿絵で季節の変化や地域に伝わる伝統行事を紹介しているので，違いが分かりやすい。 ・地域探検の振り返りで，自分の成長を１つの視点にしている点が参考になる。 ・地域探検では，劇・新聞・カルタ・教わったことを広める・音あてクイズ・パソコンの活用など多様な表現活動の例示がある。 ・「自分すてきカード」や「友だちすてきカード」で成長した自分に気付き，多様な方法でまとめ表現することで，成長を実感できるように工夫がされている。 ・カードや作文などの文章表現が多く，文章表現の苦手な児童にとっては意欲を持ちにくい例示となっている。
日文	・飼育の仕方を複数ページにわたって紹介してあり，えさが具体的で分かりやすい。 ・お世話になった人にインタビューしたり，手紙を書いたりして自分の成長のひみつを見つけ，多様な方法で「自分のものがたり」をまとめて発表する活動を通して，自分の成長に気付く工夫がされている。地域の方からの手紙を掲載していることで，他者からの評価も感じられる。 ・下巻には，季節の変化の違いを感じるような場面を取り上げた写真資料がない。 ・ワークシートの例示はあるが，記入の仕方を説明したページがない。

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　音楽

発行者	意　　見
教出	・題材名を各題材の最初だけでなく，全ページにわたり提示している。 ・音楽を形づくっている要素を見開きページの右上部に「音楽のもと」として示し，第３学年以上はメモ欄を設けている。（中・高学年） ・新出事項等を，ページの決められた場所に縦方向で提示している。（第２学年以上） ・「学びナビ」マークで活動のポイントを提示し，深い学びの実現を図るための支援となっている。 ・１年間の学習内容が目次のみで，学習のつながりがわかりにくい。 ・スキルアップ「歌声とリズムのトレーニング」や「歌声」についてのコラムを設け，イラストと説明文で発声のポイント等を発達段階に応じて示している。（第３・４・５・６学年） ・「学び合う音楽」（まなびナビ）にどのように歌いたいか考えるためのヒントを掲載し，児童が思考・判断・表現しながら見通しをもって学習できるよう配慮されている。 ・低学年に発声のポイントを示したコラム等の掲載がない。 ・「音楽づくり」の学習過程を記述しており，具体的には，音楽づくりの方法についてリズムパターンや音型の例を示しながら説明している。 ・音や音楽と生活との関わりについて扱う題材や様々な分野で活躍する人からのメッセージや写真を掲載している。 ・第５学年巻頭見開きページに狂言の魅力について紹介してある。 ・〔共通事項〕の内容を巻末の「『音楽のもと』まとめ」に掲載している。 ・第２学年から第５学年まで各学年に鑑賞用ワークシートを１ずつ設定している。 ・音楽で初めて書くワークシートの導入として選んで書けるように項目が書いてあるので，書きやすい。 ・鑑賞したことを記録する活動の中で，聴き取り方と話し合いの視点を記述している。 ・全体的にやさしい色使いがされており，学習内容として重要な部分が優先的に分かるように工夫されている。 ・写真が折り込みになっている箇所があり，ワイドになって迫力のある写真になっている。イラストも見やすく配置されている。

教芸	・１年間の学習内容が巻頭見開きで，系統的にイラストを使って表示されている。 ・題材名が各題材の最初だけでなく，全ページにわたり縦書きで提示されている。その下に題材のねらいも示されている。 ・見開きページの左上部に学習の目標とともに，学習課題を児童が理解しやすい言葉で提示している。 ・キャラクターの吹き出しの中で、音や音楽を「音楽の見方・考え方」を働かせて捉えさせる工夫をしている。 ・新出事項等は，「新しく覚えること」というコーナーで提示している。 ・「歌声」のコラムでイラストを用い発声のポイントを具体的に示している。（全学年） ・各学年の歌唱共通教材を扱ったページでは、歌詞の解説の文字が背景との関係で見えづらい。 ・「音楽づくり」の学習過程を記述している。具体的には，「音楽づくり」のしくみを図や絵で分かりやすく示している。 ・音楽を形づくっている要素を表す言葉が見開きページの右下に表記してある。 ・多様な音楽活動のための資料として，各学年とも，音楽表現のための曲集として「みんなで楽しく」を設けている。 ・音や音楽と生活との関わりについて扱う題材や様々な分野で活躍する人からのメッセージや写真を掲載している。 ・第６学年巻頭に歌舞伎の魅力，巻末に「日本の古典芸能」について紹介してある。 ・巻末の「ふり返りのページ」に各学年で学習した音楽を形づくっている要素が，関連するページ番号とともに記載されている。 ・鑑賞したことをまとめる活動の中で，聴き取り方と話し合いの視点を記述している。 ・全体的に色合いのバランスや色使いが視覚的に優しく，学習内容として重要な部分が優先的に分かるよう工夫されている。 ・白を基調とした紙面で，すっきりとした配置になっている。 ・写真もワイドになっており，見やすく配置してある。

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　図画工作

発行者	意　　見
開隆堂	・図画工作科の授業を通して育てたい３つの資質能力に対応した「学習のめあて」を各題材の冒頭に配置，その中の重点を下線・色で強調している。 また３つの資質能力に対応したキャラクターも身近に感じさせる。 ・重点的に育てたい力に対応した，児童が自己評価する際の手助けとなる「ふりかえり」を文で示してあり，文章が簡潔で分かりやすい。 ・キャラクター「くふうさん」と「ひらめきさん」が，〔共通事項〕を視点として思考させるコメントを示しているものがあり，簡潔で分かりやすい。また，フォントも太く見やすい。 ・材料や用具の取り扱い，説明の仕方は，題材名の上に絵と写真で示し，分かりやすくしている。（写真が多い）題材によって，配慮すべき内容を「安全」「かたづけ」の囲みを設けて具体的に示している。 ・題材名や活動のきっかけとなる文章（簡潔で，フォントも大きく太く分かりやすい。）の表現を工夫し意欲を高めるように工夫されている。 ・手の感触や操作を伴う鑑賞の工夫がある。 ・「ひらめきコーナー」は，身近な材料を使って具体的に作り方を示してやってみようという意欲を持たせることができる。 ・各学年の「みんなのギャラリー」の中で，様々な地域の伝統文化（祭り，おもちゃ，伝統工芸）などを取り上げている。様々な地域の伝統文化や材料，地域の人たちと一緒に制作する活動などを取り上げて興味を持たせるよう工夫している。 ・作品や活動の情景写真に大きさや形を変えることでメリハリをつけている。 ・表現と鑑賞の活動をどうすればよいか方法等が紹介されているが，その方向性が示されているので分かりやすい。

日文	・３つの資質能力に基づいた学習のめあてが設定されている。題材文とリード文を工夫し児童の意欲を高めようとしている。 ・学びに向かう力，人間性等を自然に少しずつ身に着けることへとつなげるために，活動を通して感じたり考えたりしてほしいことを例示している。 ・ふりかえりの手助けとなる文章が２文になるものもあり，長い傾向がある。 ・キャラクター「ちろたん」が，子供の活動と〔共通事項〕を結びつけるコメントを示し，学びを促している。 ・ページの左下に学習で使う主な道具のマークを示しており，各題材ページ内に「気をつけよう」で，用具の安全な使い方が示されている。 ・材料や用具の取り扱いの説明では、写真より絵の方が多い傾向にある。 ・題材名や活動のきっかけとなる文章の表現を工夫し意欲を高めるように工夫されているが，文章が２文になるものもあり長い傾向にある。また，フォントが小さく見えづらい。 ・全ての学年において，表現や体の感覚や操作を伴う鑑賞の題材を設定している。 ・「ひらめきポケット」は，造形的な視点で形や色などを見付けるヒントとなるようなページを設定しているが，具体は示していない。 ・「図画工作のつながりひろがり」の３・４年下や５・６年上において，伝統的な地域にかかわる作品を作る活動を紹介している。また，「教科書美術館」などのコーナーで，諸外国の児童や作家の作品，日本の伝統的な文化遺産，国宝，郷土の民芸品などを取り上げて興味を持たせようとしている。 ・作品や実際に活動している写真が，大きさを変えて多く掲載されているがサイズが小さいものが多い。 ・表現と鑑賞の活動をどうすればよいか方法等が紹介されているが，具体的に示されておらず自分で考えるようにされているので分かりづらい。

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　家庭

新書	意　見
東書	・全題材を３つの小題材（「見つめよう」，「計画しよう・実践しよう」，「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」）で展開することで，問題解決的な学習を進めることができる。 ・学習指導要領で示された家庭科の見方・考え方を「家庭科の窓」として設定し，全ての大題材のタイトル横に大切な視点を示している。「生活を変えるチャンス！」にも４つの視点から見つめ記述があり，生活をよりよく変えていくことを意識させている。実践例も具体的で分かりやすい。 ・各題材の最後にある「深めよう」では，既習事項を活用し，学びを深めることができるような工夫がある。トライカード，計画表などの具体例がありイメージしやすい。 ・目次の裏ページに２年間分の学習が示されている「成長の記録」があり，自分で学習を振り返り３段階でチェックすることで自己評価することができるようになっている。 ・巻末の「いつも確かめよう」の調理実習技能では，包丁で材料を切る際のいろいろな切り方が示されているが，写真とイラストの両方を使って切る順序まで詳しく説明されている。また，実寸大の写真が多く掲載されているため，紙面に手を載せて確認し，まねをしながら習得することができるなど技能を高める工夫となっている。よい例，悪い例が掲載されていることも児童にとっては分かりやすい。 ・活動マーク（「話し合おう」「調べよう」「考えよう」「やってみよう」「深めよう」などを活動１，２と意図的に設定しており，見通しをもちながら学習を進めることができる。 ・「図」や「資料」など情報量が多いページもあり，授業時数に対応するのが難しい題材もある。
開隆堂	・全題材を３つの小題材（「見つける・気づく」，「わかる・できる」，「生かす・深める」）で構成することで，問題解決的な学習を進めることができる。 ・学習指導要領で示された家庭科の見方・考え方を「生活の見方・考え方４つの視点」として図化している。各題材に登場するキャラクターが示すマークにより，どの視点が重視されているのかわかるようになっており，見方・考え方を生活に生かすヒントを示している。また，他教科での見方・考え方が思い起こせるように関連資料も掲載している。 ・各題材の振り返りの後で，「生活に生かそう」として，自分の生活にどう生かすか自分の考えを書き込むようになっており，自分が考えて書いたことを今後の実践の手がかりとして用いることができる。 ・実習後に「できたかな」を設けており，評価する項目が具体的に示されている。学習活動をチェックすることで自己の学びを振り返り，次の自分の実践に生かすことができる。 ・各教科との関連として，家庭科と関係のある用語の英語表記と日本語表記をページ下段に掲載している。巻末にも「ことばのページ」を設けて，一覧にして掲載しており，家庭科を通して英語に親しむことができる。 ・調理等の実習手順の写真が少なく，サイズが小さい。 ・題材数は多いが，２ページしかないものもあり，学習を深めるのが難しいと思われる。

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　保　健

発行者	意　見
大日本	・様々な学校生活場面の絵から，課題を見つけ出すという単元導入がされている。 ・シール教材（３・４年生）を使って，身長の伸びをグラフ化する活動や，まとめの自己評価ができるようになっている。 ・「発展」や「ミニちしき」の記載が多くちりばめられている。 ・原則，見開き（２ページ分）で小単元がまとめられている。 ・イラストや写真がやや小さめである。(教科書サイズの関係か) ・心と体のつながりが文字だけで表されているのでわかりにくい。 ・書き込むスペースが少なく小さい。
文教社	・チェック表を使って自らを振り返るところから学習をスタートさせようとしている。 ・キャラクターを設定し，会話形式で課題提示やまとめを行っている。 ・事故やけがの学習を振り返るヒントがキャラクターの吹き出しを通して表現されている。 ・小単元の終わりに学習のまとめとして記述する欄がある。 ・手当のポイントや手当に必要なものについて，キャラクターの説明にとどまっている。 ・単元のはじめのイラストページが学習内容とつなげにくい単元があった。 ・全体的に記述欄が少ない。
学研	・単元の最初に「ここでまなぶこと」を示し，学習の全体像を示している。 ・写真や臨場感のあるイラストが多く，興味関心が高められるよう工夫されている。 ・３～４人のグループで手当ての実習をする学習場面を設定している。 ・単元の最後のページのまとめが「ふりかえる・ふかめる・つなげる」の３つの構成で，記述式になっている。 ・背骨の中を通る神経がリアルに描かれている。 ・学習内容を吹き出しで網羅してあるが，興味は引き出しにくい。 ・記述欄がせまい。
東書	・どの小単元も右ページから始まり，課題を発見する１ページをとっている。そして，次ページに学習の課題が記載されている。(課題がすぐにはわからない工夫か) ・ワークシート形式で書き込むスペースが多く，書いたり話したりする活動ができる。 ・課題発見・思考・まとめの場面で記述できるスペースが充実している。(記入欄の幅が広く，書き込みがしやすい。) ・体の成長の単元では，PC・ゲーム機等の影響についての資料がある。 ・他教科・学年との関連が示してあるので，教科横断的な視点で年間計画を作成し易い。 ・心と体のつながりをマイナス面だけで描いている。
光文	・４コマ漫画での単元導入により，児童の興味関心が高められる。 ・身の回りのことについて考えるイラストがあり，課題を見つけやすい。 ・性的マイノリティについての資料がある。 ・「学んだことを生かそう・伝えよう」では，生活を振り返ったり，自分の生活につながる目標を考えたりする活動が工夫されている。(毎時間記述できる) ・単元の最後がキーワードの穴埋め形式でまとめのページなっている。 ・けがの手当ての仕方について，絵や言葉で説明する展開にとどまっている。

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　外国語

発行者	意　見
東書	・各単元の終末 Enjoy Communication において，「話す」活動を設定している。また，３回の Check Your Steps でも，習得した知識・技能を活用するスピーチ活動を設定している。 ・Can-Do リストが別冊の「Picture Dictionary」の中に示されている。５年生と６年生の２年間を見通した目標の示し方となっている。また単元ごとの目標が示されている。 ・ワードリストが「Picture Dictionary」として，別冊になっている。カラーのイラストとともに表示されており，ジャンル別にまとめられている。単語が４線上に書かれている。 ・児童用カードの切り離しには，はさみを使わなくてもよい。各学年に，コミュニケーションカードという，それぞれの単元の言語活動で活用できる児童用カードがついている。 ・文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し，４線ノートは，幅・線種・色使いにも工夫が見られ，さらに□で囲んでいる所もあり判別しやすい。 ・単元末のOver the Horizonに他教科等との関連が設定されている。 ・それぞれの活動等がどの教科とつながりがあるのか明記されていない。
開隆堂	・各単元の終末 Let's Try において，「話す」活動を設定している。また，２回の Project で，習得した知識・技能を活用したクイズやスピーチ活動等を設定している。 ・第５・６学年それぞれの教科書のはじめに Can-Do リストが CAN-DO マップの形で示されている。また，単元ごとの目標が示されている。 ・ワードリストが「単語リスト」として，巻末に英和辞典のように，A/aからZ/zまで表示されている。単語・連語について，日本語訳と，その教科書ではじめて出るページ数が表示されている。 ・ワードリストにイラストがない。単語が４線上に書かれていない。 ・児童用カードの切り離しには，はさみが必要。第５学年には単元の言語活動で活用できる名刺カードが６枚付いている。 ・文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し，４線ノートは，幅・線種・色使いにも工夫が見られる。 ・単元内に他教科等との関連がある活動等が設定されており，どの教科とのつながりがあるのかが明記されている。
学図	・各単元の終末Use ＆ Check や２回の Project Time において，習得した知識・技能を活用する活動を設定している。 ・第５・６学年の教科書ともに，Can-Do リストは示されていない。 ・ワードリストが「Word List」として，巻末にジャンル別にまとめられている。カラーのイラストとともに表示されている。 ・ワードリストに第３線のみ表示はあるが，単語が４線上に書かれていない。 ・児童用カードは付いていない。 ・文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し，４線ノートは，幅・線種に工夫が見られるが，色使いには工夫が見られない。 ・単元内に「外国や日本の文化，英語以外の教科に関連する学習」が設定されている。 ・それぞれの活動等がどの教科とつながりがあるのか明記されていない。
三省堂	・各単元で積み重ねてきたことを基に，３回のPresentationで，習得した知識・技能を活用する「インタビュー・紹介」活動を設定している。 ・第５・６学年それぞれの教科書の巻末に，Can-Doリストは示されているが，どの単元の目標なのかが明確ではない。 ・ワードリストが「Words & Phrases」として，巻末にジャンル別に分けて表示してある。カラーのイラストとともに表示されている。 ・ワードリストでは，第３線のみ表示はあるが，単語が４線上に書かれていない。 ・児童用カードは，切り離しにはさみが必要。○第６学年には，単元の言語活動で活用できる Memory Book 台紙，絵日記台紙，プロフィールカード台紙が付いている。 ・文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し，４線ノートは，幅・線種・色使いにも工夫が見られる。 ・単元間や巻末等の読み物等において，他教科等との関連が設定されている。 ・どの教科とのつながりがあるのか明記されていない。

教出	・各単元の終末Final Activityにおいて，習得した知識・技能を活用する活動を設定している。 ・第５・６学年の教科書ともに，Can-Doリストは示されていない。 ・ワードリストが「My Word Bank」として，巻末にジャンル別にまとめられている。カラーのイラストとともに表示されている。 ・ワードリストでは，第３線のみ表示はあるが，単語が４線上に書かれていない。 ・児童用カードの切り離しには，はさみを使わなくてもよい。各学年に単元の言語活動で使えるワークシートが付いている。 ・文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し，４線ノートは，幅・色使いに工夫が見られるが，線種には工夫が見られない。 ・単元内に他教科等との関連がある活動等が設定されている。 ・それぞれの活動等がどの教科とつながりがあるのか明記されていない。
光村	・各単元の終末 Jump!において，You can do it!として習得した知識・技能を活用する「話す（やりとり）」の活動を設定している。 ・第５・６学年それぞれの教科書のはじめに，Can-Doリストが示されている。どの単元の目標かは分かるが，１つの単元の目標が多く，児童の学習での取り扱いが困難になる可能性がある。 ・ワードリストが「絵辞典」として，ジャンル別にまとめられている。カラーのイラストとともに表示されている。 ・ワードリストでは，単語が４線上に書かれていない。 ・児童用カードは，切り離しにはさみが必要。各学年に，学びのパスポートというページがあり，自分のことについて絵や英語などでまとめることができる。 ・文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し，４線ノートは，幅・色使いに工夫が見られるが，線種には工夫が見られない。 ・単元間にあるFun Timeの「学びをつなげよう」というコーナーで他教科等との関連が設定されており，どの教科とのつながりがあるのかが明記されている。
啓林館	・各単元の終末のActivityにおいて，「話す」活動を設定している。また，３回のReviewで，「聞く」「読む」「話す」ことを通して，習得した知識・技能を活用する活動を設定している。 ・第５・６学年それぞれの教科書の巻末に，５領域のCan-Doリストが示されているが，単元ごとの目標として示されていない。 ・ワードリストが「Word List」として，ジャンル別にまとめられている。カラーのイラストともに表示されている。 ・ワードリストでは，第３線のみ表示はあるが，単語が４線上に書かれていない。 ・児童用カードの切り離しには，はさみを使わなくてもよい。 ・文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し，４線ノートは，幅・色使いに工夫が見られるが，線種には工夫が見られない。 ・単元内に他教科等との関連がある活動等が設定されている。 ・それぞれの活動等がどの教科とつながりがあるのか明記されていない。

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申書

小　学　校　　特別の教科　道徳

発行者	意　　見
東書	・第６学年「手品師」より 「そうした方がよいと思ったことを行動に移せたことはありますか」という発問は，抽象的であり，どのように答えたらよいか難しい。 ・「いじめのないせかいへ」「じょうほうモラル」のマークが設定してあり，児童に意識づけられるようになっている。 ・「つながる，広がる」では，具体的な場面を提示して自分の生活を振り返るようになっている。 ・「出会う・ふれ合う」のマークを使って体験的な学習を設定し具体的な活動を示してある。 ・問題解決的な学習が，はっきり示されておらず，数も少ない。 ・目次に内容項目の色分けがされていないため，わかりにくい。 ・ノートがなく，自分の考えを書く記述欄がない。
学図	・第５学年「手品師」より 「みつめよう」の問いが，「誠実であることとはどういうことでしょう」と唐突な流れになっており，児童が手品師の行為と誠実をつなげて考えるのが難しい。 ・問題解決的・体験的な学習について特に表記していないため，どの教材が問題解決的・体験的な学習にふさわしいかわかりにくい。 ・目次と学習内容一覧の中に，その教材に関わっている現代的な課題のテーマが書かれており指導するのに役に立つ。 ・コラムを配置し，情報モラルや生命尊重など今日的課題に対応できるようにしている。 ・別冊「まなび」の巻末に，「まなびのヒント」のページを設け，話し方，話し合い方法等のポイントを示している。 ・別冊「まなび」に発問が示され，記述欄が設けられているが，内容項目ごとになっており，教科書の順番とは違っていることや十分なスペースがないことから，記入しにくい。
教出	・第６学年「手品師」より 手品師が迷った末に出した結論について，価値に迫ることができる発問が設定されている。 ・問題解決的な学習ができるようにほとんどの教材で「自分だったら」と考えられる発問が設定されている。 ・授業の流れ（発問）がすべて「学びの手引き」に掲載され，先に発問を知る可能性があり，児童の多様な考えが引き出しにくい。 ・「スキル」で，人としての行いについて考えを深めるために複数の場面が「やってみよう」として設定されている。また，吹き出しを入れて分かりやすくしてあるので，体験的な学習に取り組みやすい。 ・学習のまとめとして教材の最後にとりどり先生の吹き出しがあるが，この言葉に考えが集約される懸念があり，多様な考えを引き出しにくい。 ・「まなびのきろく」を書く欄はあるが，各教材の考えを書く記述欄やノートがないので，児童の考えや思いをまとめにくく，教師が評価しにくい。

光村	・第６学年「手品師」より 誠実について多面的に考えることができる発問になっている。 ・情報モラルにふさわしい教材になっていない。 ・「えんじて考えよう」で役割演技のやり方を具体的に示している。 ・目次が内容項目により色分けされていないのでわかりにくい。 ・教材とコラムを合わせたユニットを設け，多面的・多角的に考えさせるようにしている。 ・意図的な話し合い活動の設定がわかりにくい。 ・「学びの記録」として記述するページがあるが，教材と離れていることや，記述スペースが少ないことなどから使いにくい。
日文	・第６学年「手品師」より 手品師の思いの移り変わりに寄り添って，共感しながら考えられる発問となっており，価値についての自分の生き方を振り返ることができる。 ・問題解決的・体験的な学習教材の後には，「学習の手引き」が掲載されており，そこでは学習の手順が具体的に示されていたり，絵や写真で学習の様子がわかったりするので，問題解決的・体験的な学習に取り組みやすい。 ・「劇をしたり，体を動かしたりして考えてみましょう。」というマークを使い，目次及び該当ページに示しているので，体験的学習にふさわしい教材がわかりやすい。 ・学習内容一覧の中に，その教材に関わっている現代的な課題のテーマが書かれており，指導するのに役に立つ。 ・「道徳のとびら」において内容項目が色分けされ，目次に示されているのでわかりやすい。 ・教材のはじめに，登場人物をイラスト入りで提示している。また，導入となるあらすじが２行ほどあり，話のあらすじを理解しにくい児童にも内容を把握しやすく興味が持続できる。 ・１，２年生のノートには，マス目があり，書きづらい。また，下段の記述欄は，ドットではなく罫線の方がよい。 ・教材にあわせた「道徳ノート」があり，１教材１ページという指導の実践に即した構成となっている。また，終末の発問は，実態に応じた発問ができるようあえて発問を記載せず，空欄にしてあるため使用しやすい。

光文	・第５学年「手品師」より 「手品師は，どのような思いで男の子の前で手品をしているのでしょう」の問いは，多様な思いが出すぎる発問で，価値に迫りにくい。 ・教材文の前に導入の問いかけがあり，主題に関わる問題意識を持たせている。また，終末では「まとめる（ハートを手で包むマーク）」として「考えたこと」「わかったこと」「学んだこと」を確認し，学習内容を振り返ることによって導入時での自分の考えや心の変容が実感できる。 ・学習内容一覧の中に，その教材に関わっている現代的な課題のテーマが書かれており，指導するのに役に立つ。 ・「ひろげる（手を広げるマーク）」では，「作戦をやってみましょう」「しらべましょう」「地域の活動に参加して報告会をひらきましょう」など，具体的すぎる指示があり少々強引な感じがする。また具体的すぎて実行しにくいものもある。 ・導入の発問，教材の内容に関する発問，まとめの発問，生活に広げる発問という具合に発問数が多いので，１時間の学習で活用しにくい。 ・巻頭の「道徳の時間はこんな時間です」の中の学習の手順に，話し合う活動を提示し，話し合いのポイントを提示している。 ・巻末に「学びの足あと」として記入する箇所があるが，スペースが少なく，児童が自分の考えや思いをまとめにくく，教師が評価しにくい。
学研	・「深めよう」で「つかもう」「さがそう」「ふみ出そう」という自然な流れで，具体的な発問と記述欄を設定している。 ・いじめ問題についての表記がない。 ・役割演技の場面設定が文章だけなので，イメージしにくい。 ・大判サイズの教科書で写真やイラストが引き立ち，文字もユニバーサルデザインフォントが使ってあり，読みやすい。 ・「深めよう」で，主人公の気持ちを考える際に，選択式になっているので多様な考えをひきだしにくい。 ・第５学年「手品師」より 夢の実現の大切さに重きを置くような意見が出やすい発問になっており，視点がずれていく可能性がある。 ・巻頭の「道徳の学習が始まるよ」の中に話し合う活動を提示し，「ふかめよう」や「考えよう」のページに，話し合いの具体例が掲載してある。 ・「つなげよう」「広げよう」において，記述する箇所が設けられている教材もあるが，一部であり，ノートがないので教科書への記述のみとなり，児童の考えや思いがまとめにくく，教師が評価しづらい。

廣あかつき	・第６学年「手品師」より 誠実な生き方を選んだ手品師の思いに寄り添い，自分の生き方を振り返ることができる発問がある。 ・教材ごとに３～４の発問，ノートには内容項目ごとに別の発問という具合に，非常に発問数が多く，１時間の学習では活用しにくい。 ・問題解決的な学習について，特に表記していないため，どの教材が問題解決的な学習にふさわしいか，わかりにくい。 ・いじめという直接的な表現を多用することなく，日常生活で起こりうる問題から考えられる教材を選定している。 ・「防災」「共生」「情報モラル」について，巻末に注意のような形で掲載してあるが，児童が深く考えられる教材としてはふさわしくない。 ・目次が内容項目により色分けされていないのでわかりにくく，またイラストや挿絵が少なく，活字が多いため，長文を読みにくい児童には抵抗感がある。 ・「考えよう・話し合おう」の中で，「学習のみちすじ」が示され，本教材で考えていくことがよくわかるが，何が大切か示しすぎのところがあり，児童が友達の意見と自分の考えを比較しながら思考を深めることができにくい。 ・道徳ノートはあるが，内容項目ごとにまとめられているため，使用しにくい。また，ノートの中の「学習の記録」においても「感じたことや考えたこと」と示され，授業の流れの中では使用しにくい。